

Jミルクが2023年1月27日に公表した「需給見通し(※2022年11月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

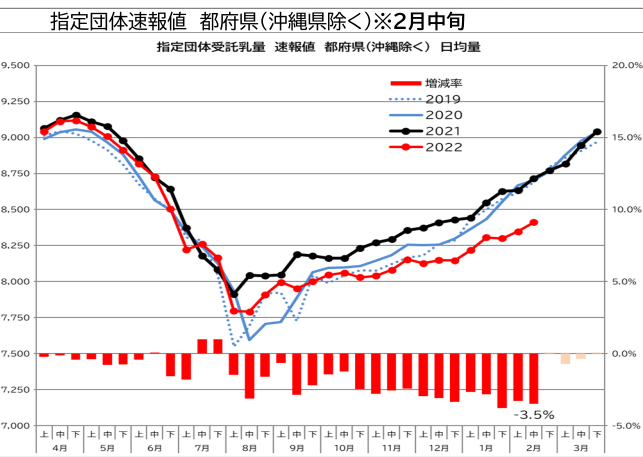
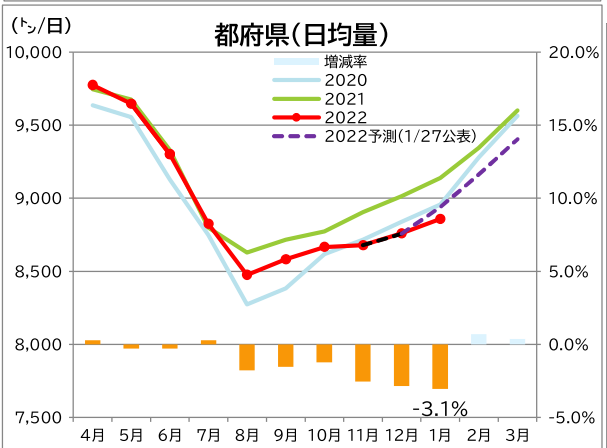
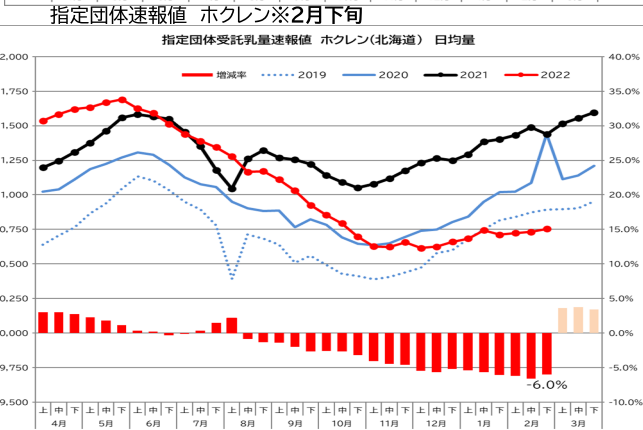
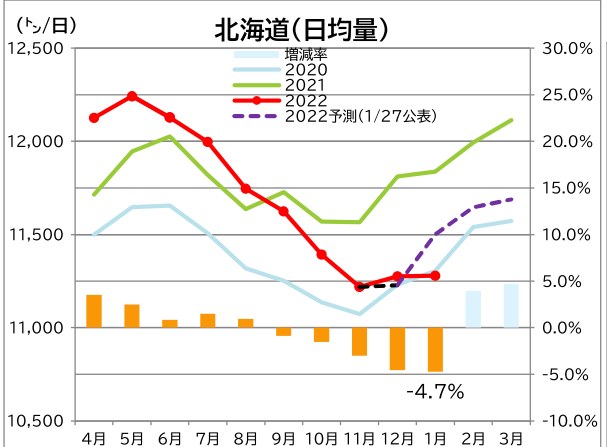
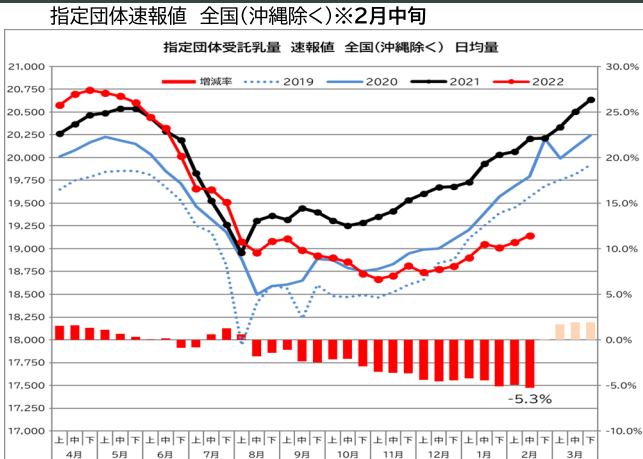
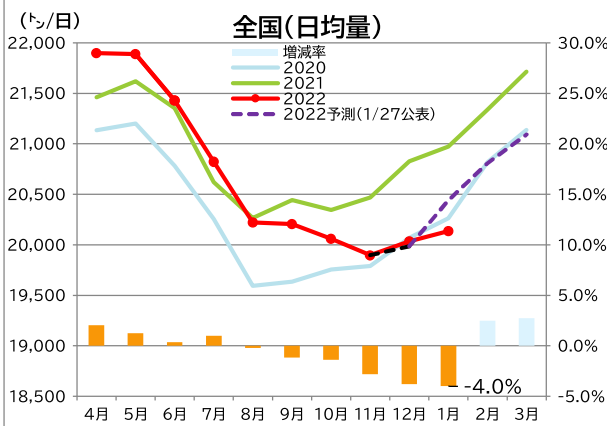
発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「飲用等向処理量は今年度最大の減少率～底堅い需要拡大が必至」

- ・1月の生乳需給実績は、飲用等向が前年同期比▲4%と今年度最大の減少率、生乳生産量についても北海道、都府県ともに今年度最大の減少率となり、全国合計で同▲4%となった。生乳生産量が飲用等向を上回って減少したことから、乳製品向は前年を下回った。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では2月は1月よりも減少率が拡大しており前年比で▲5～6%で推移、3月以降の生産量も前年を大きく下回って推移するものと見通される。
- ・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳は7月以降、バターは9月以降生産量が減少している。バターの在庫数量は業務用需要が回復傾向にあるため推定出回り量は前年を大きく上回り、在庫量は前年よりも減少した。脱脂粉乳は全国協調の在庫解消対策と北海道(ホクレン)の対策効果による推定出回り量の増加も重なったことで、在庫量は前年に比べ減少した。脱脂粉乳は高い在庫水準が継続しているため在庫対策を含めた需要確保対策による在庫消化が不可欠となっている。
- ・2月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比92.4%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):95.0%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にあることから予測値水準並みとなる可能性が十分考えられる。
- ・家計消費の支出金額をみると、昨年のまん延防止等重点措置期間の反動も要因となっていると考えられるが、1月の外食支出金額が前年よりも大きく上回っており、今後も業務用需要の拡大が期待される。一方で、物価高を背景に食料全体への支出金額は前年比+6.8%となっているものの、牛乳乳製品に対しては+2.2%であり、家計調査でみても家庭用の消費低迷が見て取れる。
- ・食料品等の値上げ品目の増加は、昨年度よりもペースが速く、今後も消費への影響は継続するものと考えられるとともに、全国の生乳生産量がピークに向かっていくなかで、春休み期間には学校給食が休止となり飲用需要が例年同様減少するため、家庭用を中心に底堅い需要拡大を実行していくことが必要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)1月の生乳生産量は、全国624.3千ト(前年同月比96.0%)、北海道349.6千ト(同95.3%)、都府県274.6千ト(同96.9%)。
- (2)Jミルク予測値(全国633.6千ト、北海道356.5千ト、都府県277.1千ト)との比較は、北海道、都府県ともに下振れとなった。
- (3)直近の指定団体速報値は2月中旬で全国が同94.7%、都府県(沖縄除く)が同96.5%、北海道は2月下旬で94.0%となっている。

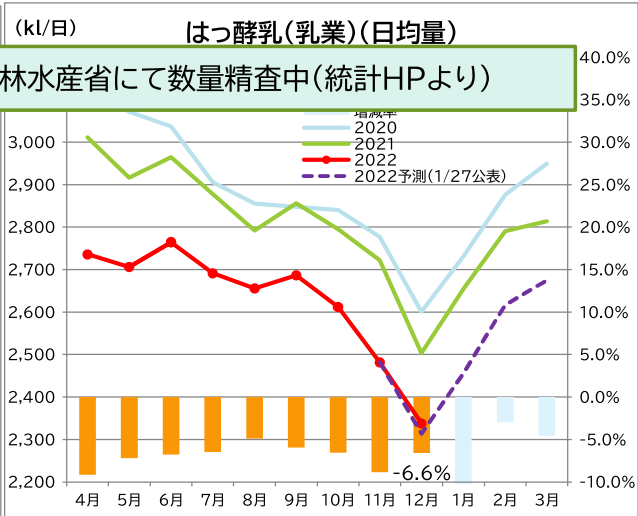
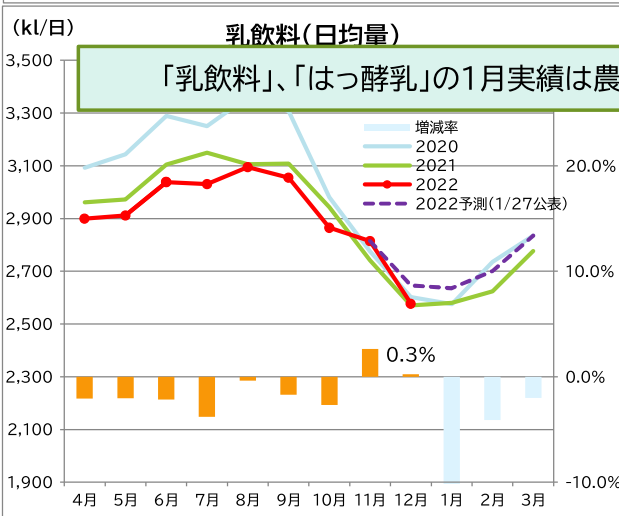
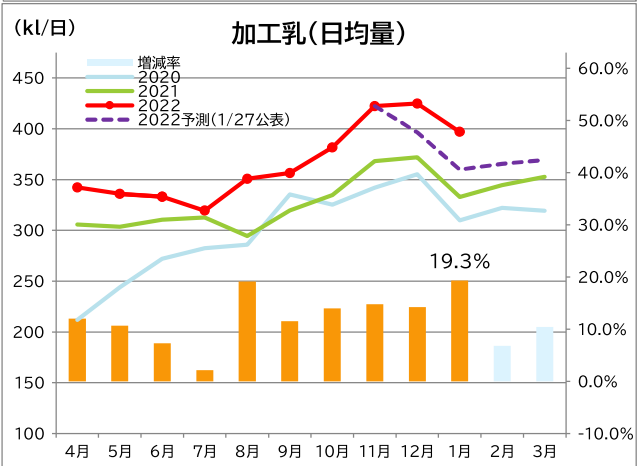
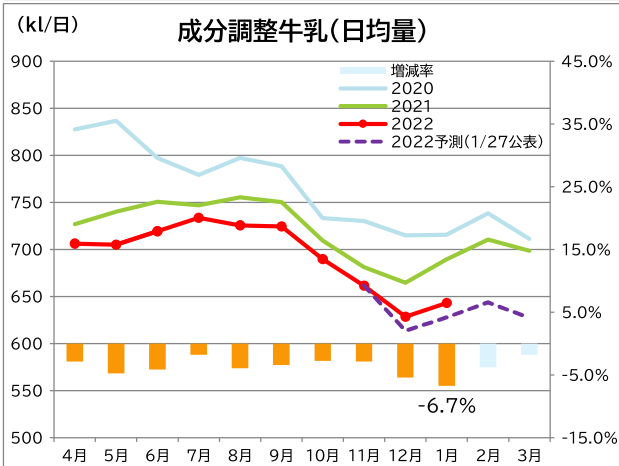
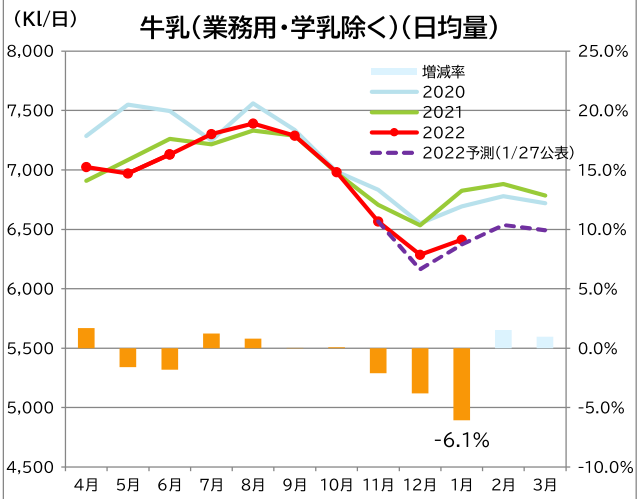
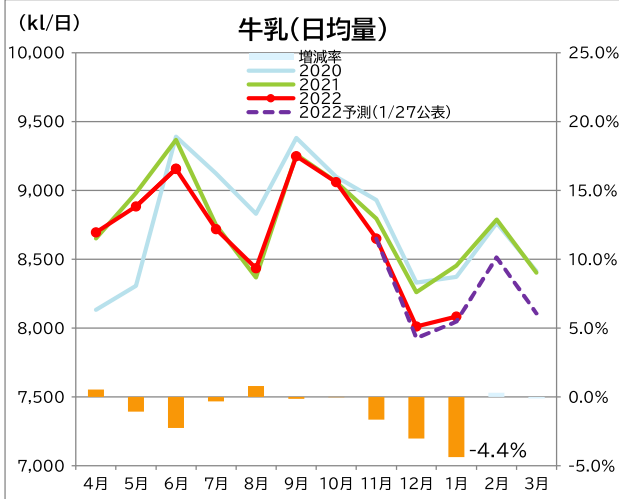


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の牛乳等生産量は、牛乳250.6千kl(前年同月比95.6%)、成分調整牛乳19.9千kl(同93.3%)、加工乳12.3千kl(同119.3%)となった。なお、「乳飲料」及び「はっ酵乳」の統計について、データの精査を実施中であり、後日公表となる(農林水産省HPより)。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同93.9%、「業務用」は同97.6%、「学乳」は107.1%。

(3)はっ酵乳(非乳業;12月)については、同106.3%と前年を上回った。



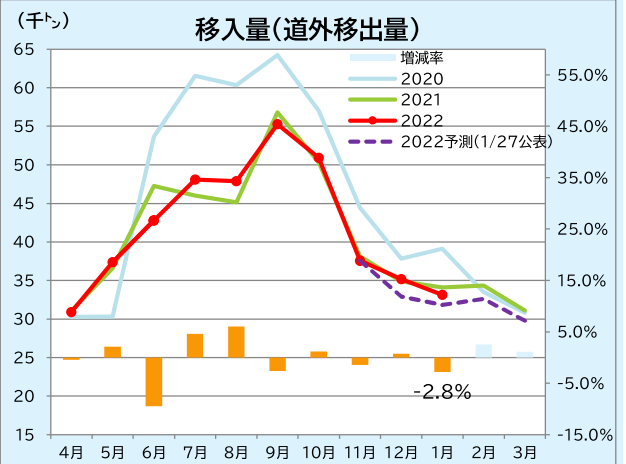
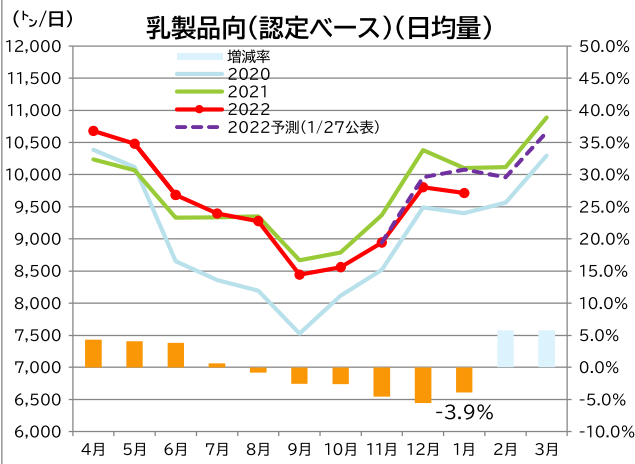
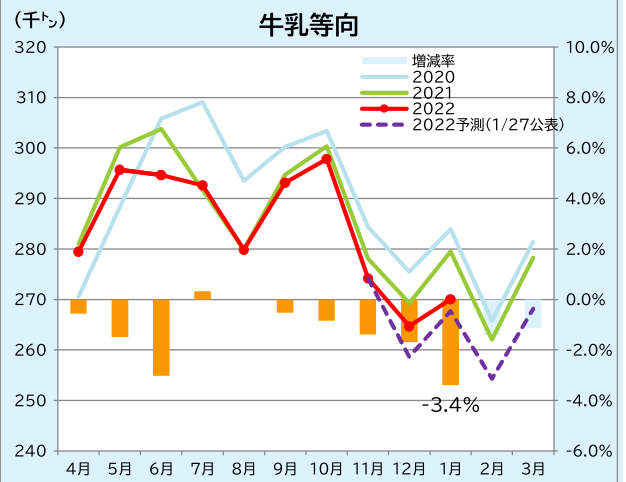
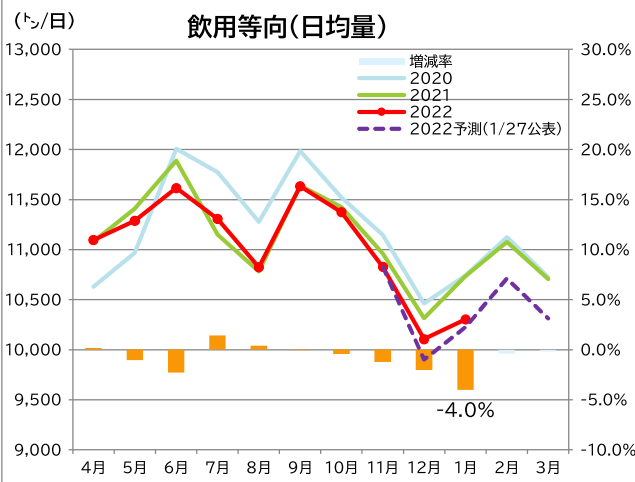
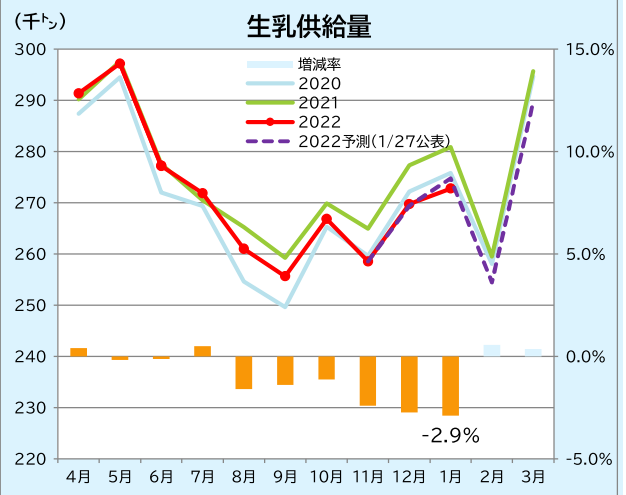
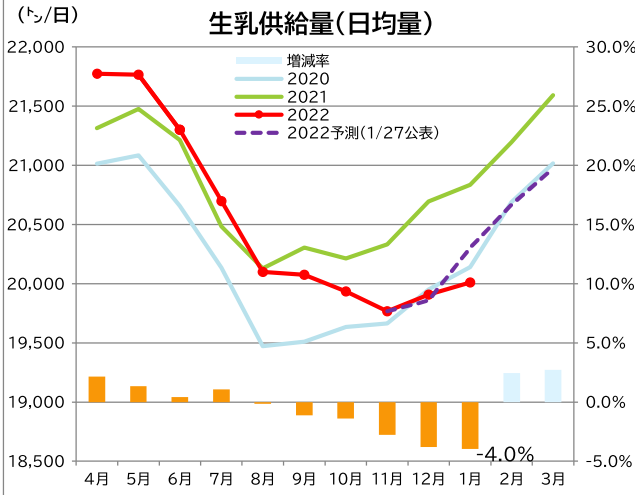
「乳飲料」、「はっ酵乳」の1月実績は農林水産省にて数量精査中(統計HPより)

【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の生乳供給量は620.3千ト(前年同月比96.0%)、飲用等向319.3千ト(同96.0%)、乳製品向(認定ベース)301.0千ト(同96.1%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:629.4千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:317.0千ト)は上振れ、結果乳製品向(予測値:312.4千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)1月は、生乳供給量272.8千ト(前年同月比97.1%)、牛乳等向270.0千ト(同96.6%)。
 (2)北海道からの移入量について、33.1千ト(同97.2%)と前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:274.8千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:267.7千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:31.8千ト)は上振れとなった。



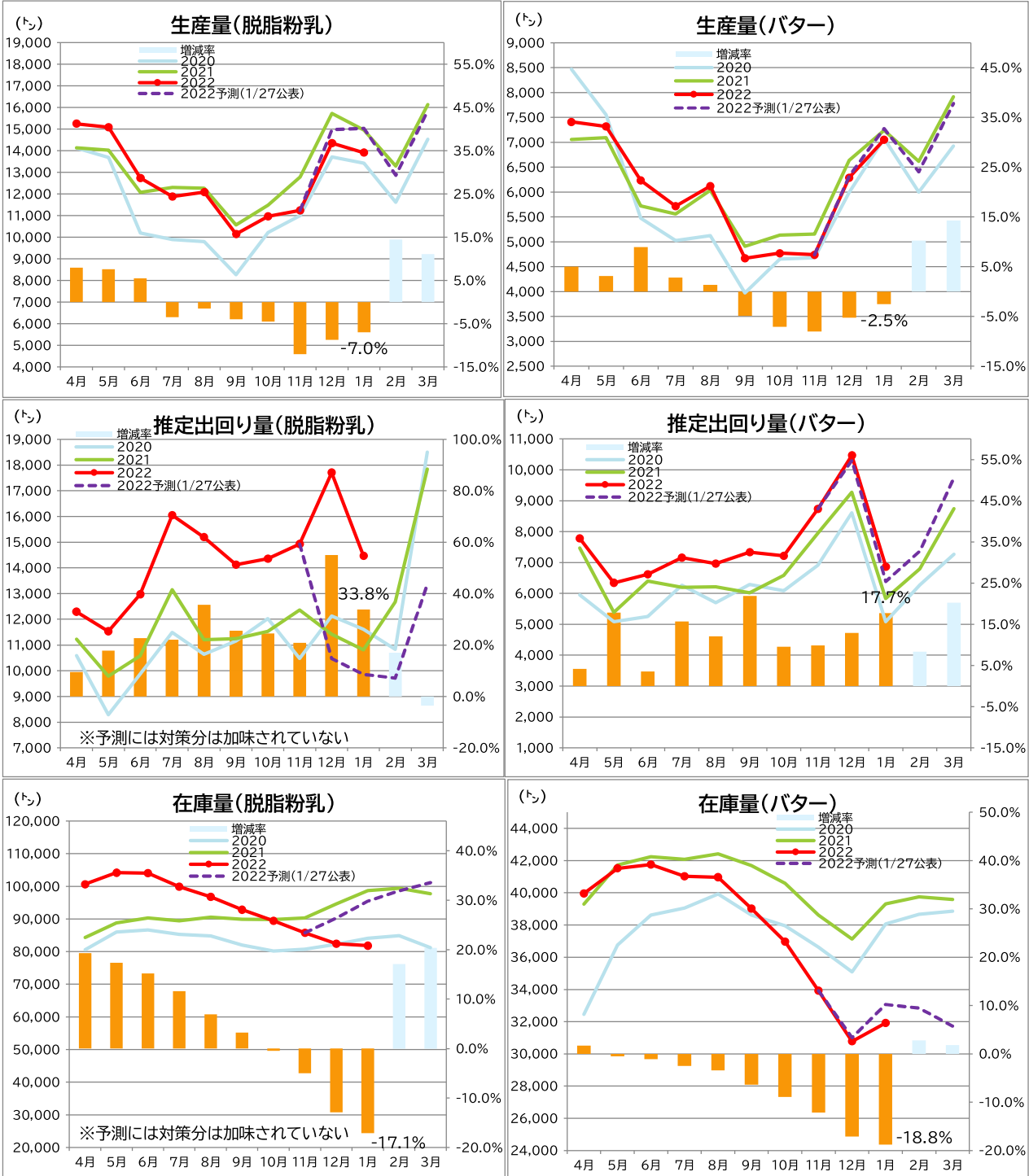
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、1月の生産量は13.9千トン(前年同月比93.0%)、推定出回り量は14.5千トン(同133.8%)。結果、在庫量は81.9千トン(同82.9%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。国産脱脂粉乳への置換が進められており、在庫量は8か月連続して減少し、4ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、1月の生産量は7.1千トン(同97.5%)、推定出回り量は6.9千トン(同117.7%)。結果、在庫量は31.9千トン(同81.2%)。出回り量よりも生産量が上回っているほか、国家貿易による輸入売渡分を考慮すると、在庫は前月よりも増加した。在庫量は9ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)2月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比92.4%、成分調整牛乳:同86.4%、加工乳:同96.2%、乳飲料:同100.2%。

牛乳類では同93.1%

【参考】2020年度比…牛乳:89.7%、成分調整牛乳:83.1%、加工乳:95.5%、乳飲料:90.7%(牛乳類トータル:89.5%)

・販売単価は、牛乳:206.3円、成分調整牛乳:188.0円、加工乳:198.6円、乳飲料:159.7円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(2/27週)の販売個数は、牛乳:前年同期比96.1%、成分調整牛乳:同86.3%、加工乳:同102.4%、乳飲料:同100.9%。

牛乳類トータルでは同96.1%

【参考】2020年度比…牛乳:91.5%、成分調整牛乳:83.5%、加工乳:102.0%、乳飲料:93.1%(牛乳類トータル:91.4%)

【参考】2019年度比(コロナ禍当初)…牛乳:90.2%

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

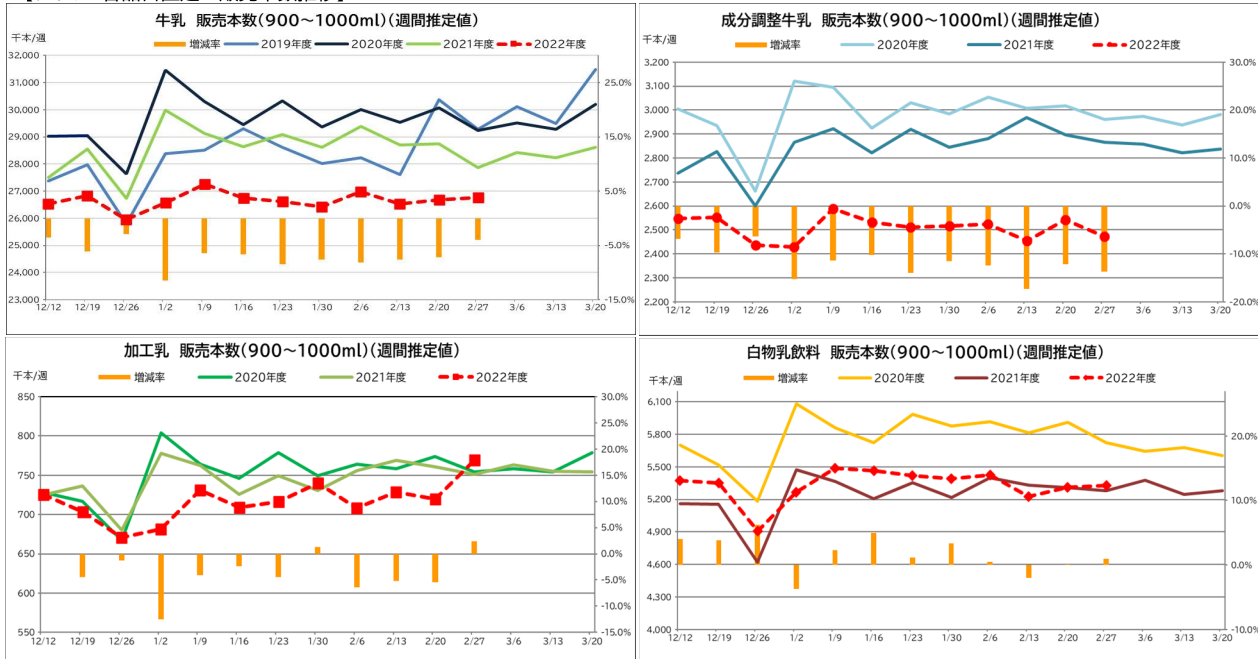
単位:千個、円

品目	区分	2022/9-	2022/10-	2022/11-	2022/12-	2023/1-	2023/2-
トータル	販売個数	175,657	171,212	155,485	159,283	152,958	141,046
	販売個数前年比	97.6	98.2	98.2	96.6	93.9	93.7
	販売単価	183.4	183.1	195.7	197.5	198.0	197.8
牛乳	販売個数	133,609	130,277	117,037	120,429	115,620	106,788
	販売個数前年比	97.7	98.3	97.3	95.6	92.8	92.4
	販売単価	190.4	190.2	204.4	206.2	207.0	206.3
成分調整牛乳	販売個数	13,243	12,796	11,463	11,550	10,874	10,022
	販売個数前年比	97.7	97.9	95.6	92.3	88.9	86.4
	販売単価	174.4	173.7	186.9	188.3	189.0	188.0
加工乳	販売個数	3,598	3,476	3,215	3,257	3,068	2,907
	販売個数前年比	97.9	97.2	99.3	98.7	95.5	96.2
	販売単価	190.5	190.1	199.1	199.7	200.8	198.6
乳飲料	販売個数	25,207	24,664	23,771	24,047	23,397	21,330
	販売個数前年比	97.2	97.9	104.2	104.0	102.5	100.2
	販売単価	150.1	149.7	156.7	157.6	157.3	159.7

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	1.9-	1.16-	1.23-	1.30-	2.6-	2.13-	2.20-	2.27-	2.27-10.24 価格差
トータル	販売個数	36,077	35,459	35,263	35,082	35,637	34,940	35,262	35,343	14.6
	販売個数前年比	94.5	94.8	92.5	93.8	92.8	92.5	93.5	96.1	
	販売単価	197.9	197.7	197.8	197.5	197.7	197.8	197.9	197.9	
牛乳	販売個数	27,268	26,752	26,617	26,434	26,979	26,532	26,687	26,774	15.9
	販売個数前年比	93.6	93.4	91.5	92.4	91.8	92.4	92.9	96.1	
	販売単価	206.8	206.7	206.8	206.5	206.2	206.1	206.4	206.2	
成分調整牛乳	販売個数	2,589	2,532	2,511	2,517	2,524	2,454	2,542	2,473	15.2
	販売個数前年比	88.6	89.7	86.0	88.5	87.6	82.6	87.8	86.3	
	販売単価	189.0	189.0	189.0	188.2	188.0	188.4	187.7	189.1	
加工乳	販売個数	731	709	716	740	708	729	720	769	5.8
	販売個数前年比	96.0	97.7	95.6	101.2	93.7	94.9	94.6	102.4	
	販売単価	200.3	202.0	200.0	197.2	200.6	196.8	199.5	196.7	
乳飲料	販売個数	5,488	5,466	5,420	5,392	5,427	5,224	5,313	5,327	10.4
	販売個数前年比	102.3	105.0	101.2	103.3	100.5	98.0	100.1	100.9	
	販売単価	157.5	157.3	157.3	158.0	159.5	160.2	160.1	160.3	

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表④参照)

直近(2/27週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%未満。

(2)全ての品目で前週よりも販売個数が増加した。ドリンクタイプは前年を大きく上回っている。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④ ヨーグルト類の販売動向】

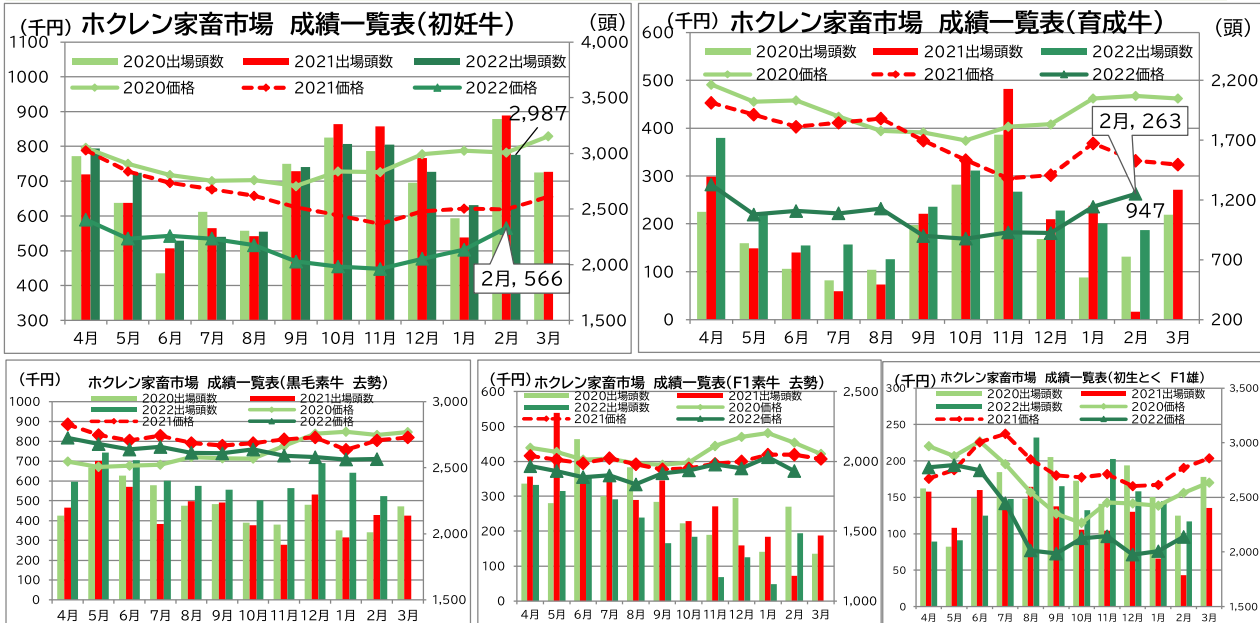
品目	1.9-	1.16-	1.23-	1.30-	2.6-	2.13-	2.20-	2.27-
ドリンクタイプ	↗	↗	↘	↗	↗	➡	↗	↗
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

- ↓ : 前年比90%未満
- ↗ : 前年比105%以上110%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↗ : 前年比110%以上120%未満
- ➡ : 前年比100%以上105%未満
- ↗ : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)2月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は566千円(前年同期比91.4%)、育成牛価格は263千円(同79.2%)、和牛素牛(去勢)価格は710千円(同88.2%)、F1素牛(去勢)価格は372千円(同88.8%)、F1初生(雄)価格は96千円(同50.4%)。初妊牛は3ヶ月連続で価格が上昇した。F1初生(雄)は2ヶ月連続で価格が上昇したものの、7ヶ月連続で10万円を下回っている。(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同89.4%、育成牛:同357.4%、和牛素牛(去勢):同106.8%、F1素牛(去勢):同126.0%、F1初生(雄):同127.5%。※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

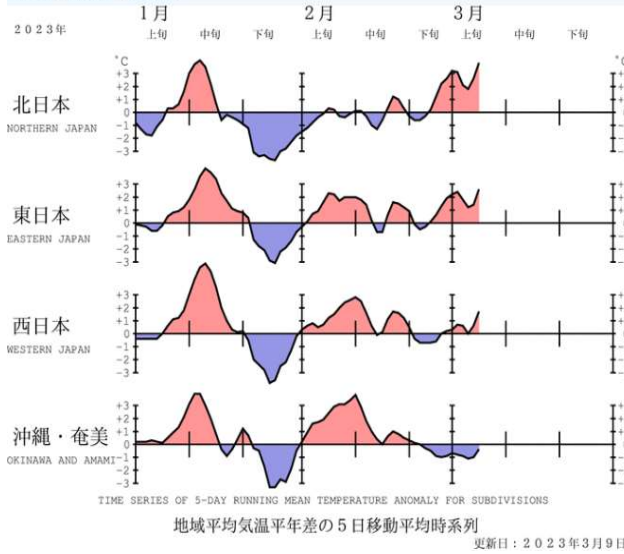


【気象庁HPより全国1ヶ月予報(3/11-4/10)抜粋】

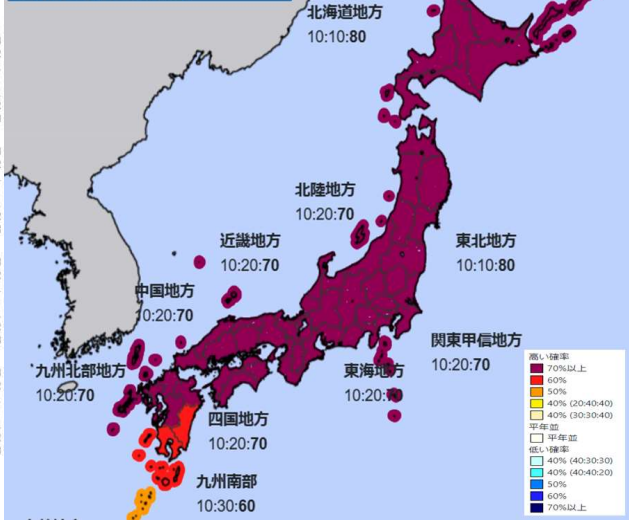
平均気温は、北日本で高い確率80%、東・西日本で高い確率70%です。

北・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 ※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2023年03月09日14時30分発表
03/11-04/10の気温



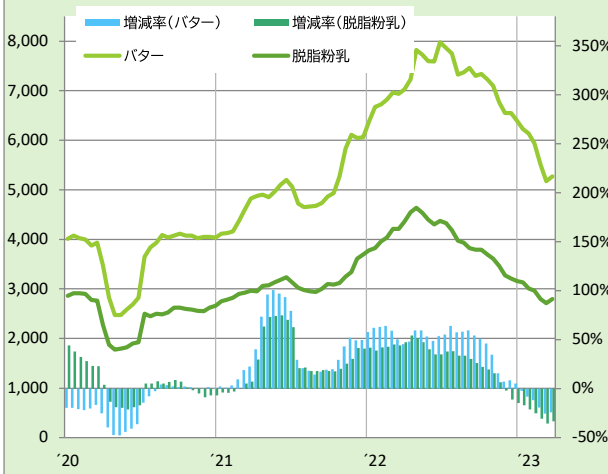
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(2月下旬)

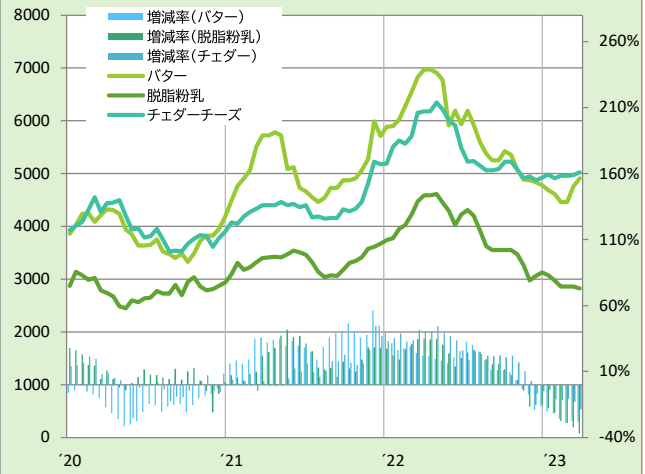
- ・欧州:脱脂粉乳2,800ドル/トン、バター5,300ドル/トン中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,800ドル/トン、バター4,900ドル/トン、チェダーチーズは5,000ドル/トン中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$ / トン F.O.B. port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$ / トン F.O.B. port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」